

子どもの生活状況等に関する調査の実施

本市では、市内の子どもの貧困の実態を把握し、必要な対策を検討するため、子育て世帯を対象にした「子どもの生活状況等に関する調査」を実施しました。

① 調査対象

種類	対象者	対象数
一般調査 (無作為抽出)	未就学児の子を持つ保護者	1,500 世帯
	小学 5 年生とその保護者	1,500 世帯
	中学 2 年生とその保護者	1,500 世帯
	16 歳（令和 4 年 4 月 1 日現在）とその保護者	1,500 世帯
支援利用者調査 (無作為抽出)	生活保護受給世帯、児童扶養手当受給世帯、就学援助受給世帯のうち、小学生または中学生以上の子とその保護者	4,000 世帯

② 配布・回収方法

郵送配布・郵送回収

③ 実施期間

令和 4 年 8 月 4 日から令和 4 年 8 月 21 日まで

④ 調査項目

世帯の構成・収入・就労・生活状況、行政支援の利用状況、子どもの生活習慣、学習習慣、自己肯定感等

⑤ 回収結果

アンケート区分		保護者			子ども		
		調査人数	有効回収数	有効回収率	調査人数	有効回収数	有効回収率
一般	未就学児	1,500	675	45.0%	－	－	－
	小学校高学年	1,500	542	36.1%	1,500	542	36.1%
	中学生以上	3,000	812	27.1%	3,000	815	27.2%
支援利用者	小学生	2,000	602	30.1%	2,000	602	30.1%
	中学生以上	2,000	579	29.0%	2,000	580	29.0%
合計		10,000	3,210	32.1%	8,500	2,539	29.9%

⑥ 保護者アンケートの回答者

	回答者数	母親	父親	祖父母	その他	無回答
一般	2,029	82.5%	17.2%	0.2%	－	－
支援利用者	1,181	88.7%	10.3%	0.6%	0.1%	0.3%
合計	3,210	84.8%	14.7%	0.3%	－	0.2%

⑦ 調査結果（概要）

※「調査結果報告書」は、市HP（<https://www.city.saitama.lg.jp/003/001/0014/001/p099591.html>）を御参照ください。

【子どもへのアンケート】

●生活習慣

一般と比べ、支援利用者は起床時間が遅い傾向があります。

一般と比べ、支援利用者は小学生では帰宅時間が早く、中学生では帰宅時間が遅い傾向があります。

一般と比べ、支援利用者は小学生では就眠時間が遅く、中学生ではあまり違いがありません。

●家族とのかかわり

一般と比べ、支援利用者は小学生では家の手伝いや宿題を見てもらう割合が低く、中学生では高い傾向があります。

一般と比べ、支援利用者は小学生では家族と話やスポーツなどの活動をする割合が高く、中学生では低い傾向があります。

●家族のことで困っていること

一般と比べ、支援利用者は「家で落ち着いて勉強できる場所がない」「家の中が散らかっている」「家にお金がない（少ない）と感じる」と回答した割合が高い。

●家族以外のことで困っていることや嫌なこと

一般と比べ、支援利用者は「授業についていけない」「希望どおりの就職ができるか不安」と回答した割合が高く、「部活動・クラブ活動、塾や習い事がとても大変」と回答した割合が低い。

●学校の授業がわからなくなった時期

学校の授業がわからなくなった時期は、小学生では4～5年生、中学生では中学1年生が多い。（一般・支援利用者 合計）

●進学希望（どの学校まで進学したいか）

一般と比べ、支援利用者は高校、専門学校・短大の割合が高く、大学の割合が低い。